

# 各地区業況アンケート結果（2019年11月調査分）

（2019年11月21日）

全国鉄鋼販売業連合会

11月20日締切で、当会役員149名に対しこのアンケートを行ったところ75名の回答があり（回答率50.3%）その結果が下記のとおりまとめましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※  $DI = (A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、（数は回答実数）

## 1. 前年割れ企業増加

問1】貴社の10月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	2	3	20	20	29	74	81
比率	3%	4%	27%	27%	39%	DI-96	DI-16
売上金額/前年同月比	3	6	21	21	24	75	82
比率	4%	8%	28%	28%	32%	DI-76	DI-10

## 2. 赤字3割

問2】貴社の10月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	15	16	20	16	6	73	81
比率	21%	22%	27%	22%	8%	DI+25	DI+46

## 3. 自動車向けの減少目立つ

問3】貴社の営業窓口から見て11月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向		6	37	10	4	57	-21	-12
民間建設向	1	6	37	16	4	64	-25	-29
自動車向		1	18	15	2	36	-50	-18
その他需要家向		4	32	22	5	63	-44	-24
仲間取引		1	37	14	7	59	-46	-33
計	1	18	161	77	22	279	-36	-24
比率	0%	6%	58%	28%	8%			

## 4. 冬場に入り減少傾向

問4】貴社における向う12月から2月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横ばい	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	0	8	35	25	7	75	80
比率	0%	11%	47%	33%	9%	DI -41	DI -8

## 5. 過剰気味傾向続く

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	品種別	A	B	C	D	E		11月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	DI
0	0	19	11	0	0	6	0	-7	-14	-28	-31	-27	鉄筋用丸鋼			22	9	1	32	-34
15	7	0	0	-3	0	-6	-3	-16	-18	-23	-29	-28	構造用丸鋼			21	7		28	-25
0	-3	3	0	-3	3	-8	-8	-9	-18	-20	-10	-12	平角鋼		3	26	5		34	-6
18	41	41	36	15	11	-8	-24	-22	-36	-29	-29	-18	H形鋼		2	24	6		32	-13
100	125	89	120	85	57	25	12	4	-11	-15	-26	-11	コラム			21	5		26	-19
-11	5	3	-6	-11	-8	-3	-10	-14	-15	-16	-24	-16	小形山形鋼			30	6		36	-17
-11	3	3	-6	-14	-8	-15	-15	-16	-20	-23	-29	-21	中形山形鋼			29	8		37	-22
-11	5	0	-9	-11	-3	-13	-19	-17	-23	-21	-26	-29	溝形鋼		2	25	9		36	-19
-16	-6	-14	-9	-16	-9	-3	-12	-10	-13	-15	-34	-30	軽量形鋼C形			23	8	1	32	-31
-5	-5	-5	0	-9	0	-12	-10	-5	-5	-11	-25	-16	軽量形鋼広巾			18	1	1	20	-15
12	8	12	0	-3	0	-21	-32	-34	-43	-58	-58	-53	冷延薄板		1	14	13	2	30	-53
0	17	14	16	-3	-3	-21	-28	-34	-55	-55	-50	-56	熱延薄板			14	14	2	30	-60
3	0	8	0	-7	-10	-32	-43	-45	-52	-53	-68	-59	表面処理鋼板			16	15	1	32	-53
-10	20	34	16	3	0	-25	-39	-38	-44	-51	-57	-53	酸洗鋼板			16	17	1	34	-56
7	20	20	18	7	0	-13	-19	-33	-50	-48	-47	-51	中板			21	15	2	38	-50
41	49	45	36	15	17	0	-10	-29	-50	-38	-45	-51	厚板			20	16	1	37	-49
13	33	19	6	19	5	0	-13	-12	-32	-25	-20	-28	極厚板			14	4		18	-22
-7	0	6	-6	6	0	0	0	-14	-19	-13	-29	-27	縞板			24	2	2	28	-21
3	16	3	0	-5	-10	-8	-18	-15	-30	-18	-31	-30	中径角			27	8	1	36	-28
0	3	8	13	2	2	-8	-8	-13	-16	-10	-25	-15	ガス管黒			32	3	2	37	-19
-3	-3	-8	0	-5	-5	-13	-19	-5	-17	-11	-22	-16	構造用鋼管			31	4	1	36	-17
5	14	14	10	2	1	-9	-15	-19	-28	-28	-34	-31	計	0	8	468	175	18	669	-30

## 6. 秋需盛り上がりならず低調な商い続く

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	北海道の地方部の丸棒需要は、今期とても早くに閑散期入りする。秋需はかなり低迷。今後の市況が不安である。
	B	10月より荷動きが悪くなっている。この先の案件も見えず、先行き不安である。基幹産業の水産も記録的な不漁で街に活気がない。
	C	(一般形鋼・H形鋼) 10月、秋需の荷動きは予想の範囲内で終了した。11月から冬場想定で期待できない季節になる。道央圏のファブはおおむね冬場も仕事量を確保している様子。
東北	A	通常であれば、需要期である10月においても荷動きは良いとは言えない状況。全業種、全体的に山はあるものの、昨年と比較すれば▲10～15%程度の稼働率で推移している。工事案件についても、今期は特にボルトの入手難等の影響もあり、全体的に中小案件の工事件数が少ない。ファブの山積み状況も80～100%となっている。冬場の仕事も、ある程度抱えている関係で年明け1～2月の需要については大きく落ち込まない予想。
	B	見積もりは少ない状況。大型案件は年明けから動いてくると思われる。
	C	新規案件も少なく、価格も下落。来年に期待するしかない。
	D	丸棒の新規物件の引合いは減少している。成約物件も価格が下落傾向にあり、利益を確保できない状況。
新潟	A	停滞ムード。輸入材の入着や市中在庫の増加からの市況下落が心配である。
	B	10月に入っても需要状態は盛り上がりせず、客先によりバラツキが広がってくる感あり。
	C	価格は弱含み。見積りも少なく、先行き不透明。
	D	得意先での働き方改革による実稼働の減少や関東物件などの減少により引合いが少なくなっている
	E	車、建機、地場産業(燃烧器具関連を除く)はいずれも低位安定。秋冬用品の動きも鈍い。
	F	先月より業績は良くなったが、依然、需要は少ない。オリンピック明けまで、このような状況が続くのではないかと感じている。
	G	ファブは受注残を抱えるも足元薄い。季節需要の暖房機、建築金物はピークも天候、増税の影響もあり、盛り上がりを欠く。産業機械は輸出低調。国内向けレジ金融端末、医療は堅調。
神奈川	A	中小案件の動きは目立ってよいとは思われない。需要家も忙しいところは限られており、まだまだ100%にはほど遠い様に思われる。市況も一般形鋼の影響もあり、建機製品も売り越しが弱くなってきている。
	B	工作機械案件は3ヶ月前の引合いを受注できたため今月は好調。しかし、3ヶ月先の引合いは少ない。公共建設、民間建設は安定した受注を頂いている。
東京	A	(鋼管) 需要は前年同月比ダウンしているが、7～9月比ではアップしてきた。建築向けは先行きに期待が出てきた。
	B	(鋼管) 9月以降、連休や台風などの影響もあり、荷動きは大きく落ち込んでいる。市況は弱含みで高値と安値が乖離している。
	C	店売り価格は横ばい。秋需は昨年ほど盛り上がることはないが、そこそこの需要はある。

東京	D	(表面処理鋼板) 顧客より安価な輸入材の話聞く機会が多くなってきた。国内材だけでは粗利がとれず、そろそろ収益面が厳しくなってきた。輸入材を使用しないのが、これまでの会社の政策だったが、いよいよ見直す時期に来た気がする。
	E	自動車、建設機械、工作機械など全般的に需要は低迷。市況は弱含みながら大きな落ち込みにはなっていない。
	F	(酸洗鋼板) 秋需はなさそうだ。今年はこのまま低調で終わりそう。自動車以外の分野での値上げは厳しいので販売量維持に努めるが与信管理は怠らずにしていこう。
	G	例年の需要期に比べ、盛り上がりには欠ける。安売りも目立ち市況の維持が難しい。
	H	9月、10月と台風および大雨の影響で、一部取引先の操業が停止してしまい荷動きが悪くなってしまった。また、後継者問題や従業員の高齢化などで中小企業の廃業が取引先で相次いでいる。好調だった一部の産機系の仕事も減少傾向にあり、先行き不安あり。
静岡	A	当地区の建設案件は来年以降、他地区に比べ少ないという情報があり、気がかりである。2020年夏は東京五輪により首都圏の交通がマヒし、物流に影響がありそうだ。五輪後の景気動向が不安である。
	B	加工物流においては大手鋼材特約店の独断場である。鉄骨ファブ向けの胴縁加工品の受注が11月～12月にかけて増加に期待である。10月の大手店売り企業の販売量は落ち込んだというのがほとんどであった。地域限定で営業活動を行っている杭関係も建設予算見直しなどの仕切り直しや建設予定地の整備遅延などで厳しい状況であった。11月下旬～12月上旬頃からの着工のゴーサインに期待。Mグレードクラスから物件の情報を求める声があるいずれにしても鉄鋼商社、大手鉄鋼加工物流、大手ファブがビッグディール握っている。信用不安に関しては年末に向けて多少動いている様子である。
	C	決定していた案件は、予定通り着工し始めているが、回転の良い中小案件が少なく、秋需の盛り上がりは感じられない。各品種の価格もメーカー動向にかかわらず弱含みで推移。今後の需要にもよるが安値も散見されはじめ不安である。
石川	A	依然として荷動き回復の手応えはない。買い手側からの価格の揺さぶりも多いがいくら売り焦っていても板厚やサイズの価格エクストラまでも崩して受注に漕ぎつけようとするのは如何なものか。壊すは簡単だが、元に戻せるのだろうか。
	B	最近の傾向で洪水災害を中心に防災対策用の敷板の需要が活発で徐々に増加するはずが、買うよりもリース中心の中小土木業者が多い。もっと腰を落ち着けて将来を見る気にならないのかと思う。久しぶりの不況感が漂ってきたが、国内外の政治家を眺めていけば、これは仕方がないのか。
富山		夏期から取引先の売上が減少傾向である。5%減だったのが、秋期になり全体的に(5～20%減)と減少幅が広がってきた。
愛知	A	低迷ムードは続いている。今まで支えてくれた自動車関係の先行きが心配である。この状態が続けば信用問題が増えてくる。今は我慢の時か。
	B	工場内の設備で主に角パイプ等の切断品の注文が増えつつある。このまま拡大して活気づけてほしい。
	C	(集購) 山は高いが扱車種によってばらつきがある。(プロパー) 新規引合いのない状態が続いており、集購価格の改定だけでは追い付かない。増税の影響が終わり一服状態。10月は全業種の受注量が落ち込んでおり、備蓄に入る時期が不透明である。

三重		市況は弱含みである。ファブによって受注量の山谷はあるものの年明けまで仕事はありそう。しかし、来年以降の仕事はこの先の景気によると思われる。
岐阜		産業機械、建設機械、設備関連など仕事量は減ってきている。他県からの安値売込みもあり、相場のジリ安が止まらず、価格の維持をしてもらいたい。
大阪	A	10月の販売量は稼働日数分、増加した。足元は当用買い中心。11月も10月並みの荷動きが続く。メーカーの価格重視姿勢は変わらない。市中価格は弱含み横ばい。昨年の10月、11月の荷動きに比べると減少しているが、季節なりの荷動きになっている。
	B	前月対比では売上数量、金額とも多少増えたが、本来の秋需時期から考え、迫力不足は否めない。ハイテンションボルト不足の影響が尾を引いているのか鉄骨案件の動きが全般的に悪い。
兵庫	A	台風19号による建機部品調達の滞りの影響がこれから出るとされる。
	B	足元の引合いは落ちているが加工は忙しい。コラムの相場が安いので苦しい。
岡山		全地域、全業種でダウン。大きな物件は見えてこない。
香川		土木関係は需要期に入り、幾分増えてきたようだが、主力の建築は未だ低水準から抜け出せない。ボルト不足は幾分よくなってきているようだが、実感としてはまだまだのようだ。在庫は多くないが出荷が厳しい状況だ。